

普及活動情勢報告（令和7年11月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

今年の出荷始めは？ ～JA高知県津野山ユズ部会目慣らし会～



ユズ出荷規格の展示

10月20日、JA高知県津野山ユズ部会が出荷先であるJA馬路村の長野組合長を招いて目慣らし会を行い、部会員61人が参加しました。

目慣らし会では、JA高知県津野山経済課が出荷の日程、出荷規格等について説明を行い、生産者は、サンプルとして展示された果実の出荷規格を熱心に確認していました。

農業改良普及課からは、今年の実育状況や隔年結果防止のための施肥（お礼肥）の大切さについて説明しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して講習会など生産者が集まる機会を捉えて、ユズ栽培の基礎について説明し、栽培レベルの向上を図っていきます。

複式簿記での経営管理を目指して ～津野町の集落営農組織の簿記記帳支援～



座学でともに学びながら聞き取りをする普及指導員

10月21日、23日に須崎農業振興センターで津野町の久保川集落営農組合と高野西部組合の組合員3人に対して、複式簿記記帳の勉強会を開催しました。

農業改良普及課は、講師の経営担当専門技術員から、複式簿記の基本とパソコン簿記ソフトの使い方などを座学でともに学びながら、部門設定の内容や日常の取り引きなどについて聞き取りを行いました。

参加者からは「借方、貸方の言葉が難しい」「パソコンの操作に慣れないけど、入力してみる」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もそれぞれの集落営農組織の進捗状況を確認しながら、引き続き記帳支援と経営管理支援を行っていきます。

適正な有機培地での栽培のために ～ミョウガの有機培地特性調査～



有機培地の試験を準備する普及指導員

10月20～28日、JA土佐くろしおから供試された新たなヤシガラ培地の特性調査を実施しました。

調査項目は、含水率、加水時の復元率、排液のpH、EC、塩素及び吸光度（農業技術センター土壤肥料担当協力）です。このヤシガラ培地は復元率が高く、吸光度、塩素量ともに実用レベルで問題がありませんでした。一方、EC濃度（K濃度）が高かったことから、使用前に十分な除塩が必要であることが分かりました。この調査により今後の指導に役立つ基礎データが得られました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、ミョウガの栽培を支援していきます。

データを活用した管理に取り組もう ～JA土佐くろしおインゲン部会現地検討会～



ハウス内環境データについて説明する普及指導員

11月6日、須崎市及び中土佐町のハウスで、JA土佐くろしおインゲン部会が現地検討会を開催し、生産者17人が参加しました。

農業改良普及課からは、今後の栽培管理と病虫害の防除について説明しました。また、検討会ほ場の温湿度、炭酸ガス濃度等の推移について「お返しシート」により説明を行い、環境データに基づく栽培管理の重要性を啓発しました。

生産者からは、「簡易な測定装置でリアルタイムで見られるようにしたい」「温度管理の参考としたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もインゲンの収量・品質向上に向けて、個別巡回等を通じてハウス内環境データの活用を支援します。

反収向上に向けて ～JA高知県津野山ミョウガ部会による他産地視察～



現地ほ場を見学する生産者

11月13日、JA高知県津野山ミョウガ部会が四万十町興津への産地視察を開催し、生産者9人が参加しました。

生産者からは「夏場の暑さ対策はどうしているか」「冬場の温度設定はどれくらいか」という質問や「(土耕ミョウガほ場を視察して)こんなにきれいな赤色になるのはすごい」という声があり、出荷場での調製方法についても興味深く見学していました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、ミョウガの収量・品質向上に向けた支援を行っていきます。

法人化したら経営はどうか？ ～専門家による法人化シミュレーション～



面談で将来の経営等の聞き取りをする普及指導員

11月17日、農業経営・就農支援センターの専門家派遣を活用して、法人志向農家3戸との面談を行いました。

面談では、専門家が事前に作成した5パターンの法人化シミュレーションが示され、どのパターンでも所得税の節税額以上に社会保険料の負担増加額が大きいことが分かりました。また、個人で可能な節税として様々な税務上の特例の説明がありました。

農家からは「社保の負担は重たいが、日本人を雇うためには法人化も検討しなくては」「税務の特例は知らなかったので今年から活用したい」という意見がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して法人化を志向する農家への支援を継続していきます。